6.教会と社会における対話

質問 ： 皆さんの教会では、そのビジョンや方針はどのように話し合われ、決められていますか。
近隣の教区、地域の修道会、信徒団体などと、どのような対話と協力をしているでしょうか。
信者以外の一般の人々と、どういった対話、協力の経験がありますか。
彼らから、どのようなことを学んでいますか。

宣教に限らず、誰にでも信仰の大切さを知ってほしいし、伝えたい
ビジョンや方針は、毎月の小教区評議会や年１回の年次集会等により話し合い決定している
ビジョン、方針は司祭を含めた役員会で決められている
ビジョン、方針は、司教の指針を受け、評議会、信徒総会で話合われている
ブロック内でビジョンや方針目標が共有されるとともに、各小教区の実態が互いに理解されつつある

ブロックの役員会議は機能している
重要なことは、役員から文書で信徒に紹介され、意見を聞いて評議会で決定される
役員会が提案し、評議会で決定
将来展望は、長期計画・短期計画など、評議会で決定されている
評議会の話し合いの中でビジョンや方針が話し合われ決定される
役員会で議題の検討を行い、意見を聞き、他の団体とは担当役員が会議などに参加する
司祭と役員との準備会を経て、評議会を開催、評議会の決定事項を信徒に知らせる

近隣の教会とは合同で墓地清掃の件や行事についての話し合いがもたれている
近隣教会においては、２ヶ月に１回のブロック会議で対話し協力している
ブロック教会学校の行事については、年４回ブロック教師会の会議で決定

教会の信徒だけでは実行できない行事も若いパワーやアイデア、実行力に学んで続けてこられた
聖堂はそのつど地域団体等に開放されている
修道会の修道者が積極的に典礼や教育に参加している
修道院のシスター方と信徒4～5人で、祈りと分かち合いの実践し、その場で話し合ったことは、その場限りとし、考えの違いで参考になる事が多い。
修道者はミサ・奉仕等に参加する
地域のカトリック高校との交流も時々行われている

地域福祉センターのバザーへの物品提供および、販売協力を通して、社会に寄り添うように努めている
地域との繋がりを大切にし、役を引き受け、耳を傾け、社協を通して交流に参加
学童保育に場所を貸して子どもたちに声をかける
地域住民と交流のため敬老会などを行うことで、各自ができることを自覚、行動を起こす心構えを学んだ
仕事やボランティアなどの組織や事業所で、様々な活動場所や近所同士のつながり、自治会等のコミュニティ、趣味やサークル、公民館の文化活動などで、教会外の方々との不可欠な関わりが広がっている
市民としても社会人としても、恩恵を受けている地域との協力、地域社会の一員として義務を果たしている

日常の交流や協働の中で会話が生まれ、対話が深まり、喜び、悲しみ、苦しみを共有し、悩みの相談にいたる
宣教は日頃の、素直に謝ったり、感謝したりする姿勢などで示せる
困っている人や苦しんでいる人の話を聞きつつ、心に寄り添い、癒しを分け合う
障がい者グループ支援を個人や小さなグループで行っている
自営の店が交流の場

子どももこども園や学校での生活を通して宣教している
子どもたちが保育園を通して教会を知ることができる
併設のこども園はある意味教会のショーウインドウの役割
カトリック幼稚園を卒園して十数年後に教会に来ることもあって、福音宣教につながっている
隣のカトリックこども園の夏祭に出店するなどの交流がある
園で教会の鍵を預かってもらっている
カトリックこども園と連携したいと評議会から提案され、園の代表が出席することになった

経営母体の修道会とビジョンは共有しているが、他の小教区とのつながりはない
カトリック学校連盟や部活動でのカトリック大会との連携はある。
合同研修会等で修道会の宣教のビジョンを共有しており、教職員も協力的に参加している
信者ではない教職員に対してのキリスト教的価値観の醸成に困難を感じる部分もある。

市民クリスマスを通じて、地域の方に教会を知ってもらえることがよかった
一般の人々とクリスマスには本当のクリスマスに行って来るとか、あなたも一緒に行ってみるとか話す
近隣の方にはクリスマス・メッセージを届けている
「心のともしび」を幼稚園・ガールスカウト・近隣宅へ配布をし始めた
地域の行事やボランティアグループに参加
古切手を集めのボランティアなどできることを考える
支援を求めている、困っている人たちへの募金などの活動
地域行事への参加が出来ないところは、公園トイレ清掃・通学路花壇など地域奉仕をする

町内会とゴミ拾い（現在年 2 回役員対応）
町内会や自治会の掃除などの活動に参加
地域活動に協力することも大切な奉仕
教会の夫々の部会は地域社会や近隣教会と結びついている
町内の自治会の掃除にも時々参加したり、バザーなどを通じ、教会の門を開けて出入りしてもらったりする
教会で掃除、剪定などを行なっていると、近隣の方が教会の周りをきれいにして下さることに感謝します、と言われるが、これは逆に、教会が周りの方々から見られており、いつもきれいにしておく事を言われていると思う

地域によっては共同体の活動に神社の行事が欠かせない
町内会のお祭りに参加、役も引き受け、カトリック信徒であっても参加
地域の地蔵盆をカトリックの幼稚園で行った
地元の祭に司祭が参加して笛を吹くなどしていた
地域とつながるためにできることを考えることは大切
部屋を貸して地域と交流する

地域社会で困難を感じている人を援助する活動のために場所を提供する（教会外の団体の活動に）
自治会と合同防災訓練を実施するうちに、近所の方を降誕祭に招いたこと
バザーなどで地域の方とかかわり、教会を知ってもらう機会
児童養護施設の人はバザーの招待を喜んでいる
バザーをマックや白百合会の方と一緒にできることを継続する

クリスマスキャロルやコカリナコンサートは教会を知ってもらう役に立った
子どもたちをクリスマスの時に招待し交流を持った
一般の人たちとクリスマスで繋がっていた、深夜ミサはキリスト教を知ってもらうよい機会
幼稚園の声掛けで信徒でない園児や保護者がクリスマスミサに参加していた
子どもたちのために、志願院の学生が定期的に学びと体験をさせてくれている
中学生のために教会外から勉強を教えに来ていただいている
行事や地域中で困っておられる方を助け、つながりや関わりを持って良い関係を保てるように心掛ける
ブロックのウォーカソンなどを実施
隣接する教会とは繋がりが強く、ブロック内の教育部の活動は合同で、キャンプ、中高生の黙想、コロナ禍ではリモートによる堅信前後の講座に取り組んでいる

志ある人々はいつの時代も出来ることから始める
友人や隣近所の方々との助け合いなど、日常は教会で使われる表現を用いず、自然な交わりを心がけている
職場の付き合いを欠席するとき、教会の行事のためだと伝えることで、職場の人に教会のことに関心をもってもらうきっかけになっている
他宗教の友達に対しても普通に話をして、機会をとらえて信仰の話をする
助け合いの精神、大切なのは心の問題
一般の人々とは優しい気持ちで接し、相手の気持ちをくむようにしている
役員提示を受け入れている

教会の外では自分のできる範囲で信仰に基づいた行いをして、身の丈にあった福音宣教を形にする
個人的に知っている信徒を通じて情報交換などを行っている
個人的に社会福祉施設などでの対話や共同作業
60 代以下の若い方のボランティア・人権意識に頭が下がる
お寺や神社と同じ感覚で、祝い事・悲しみ事・祭り事と共に奉仕して人々と交わる場所

夫は、死に際ならカトリックになってもよい、と言っていたが、コロナ禍のため教会で葬儀が出来ず、後日司祭が信徒でない夫のために追悼ミサを捧げて下さった
葬儀や法事という親族の交流の場は教会と一般社会が対話するチャンスであり、ミサでは説教や讃美歌に接してもらって、教会の良さが自然に伝わる
信徒でない人の冠婚葬祭を教会または他の施設においても教会形式で行い、司祭や信徒の協力により、一般の人に教会の良さを知ってもらえた
教会の良い伝統を、若い人が受け継ぐことを望む

ミサや行事の際の受付・案内を行うこと、敬老の日の集いの計画を部会で担当している
ZOOMでの対話・少人数グループでの対話など大人数の集会にはない双方向性の対話が進められる
講座に出席するようにして、また、ZOOMに参加して祈る
教区主催の行事やセミナー等に参加したい
聖書講座で信徒でない一般の方々とキリスト教について学んでいた
神と人に誠実に対することで宣教にもなっている

依存症回復施設との連携、その他の地元協力による行事等を通して、対話があり、共に祈る
DARCへの経済的支援・場所貸が支援者のグループと司祭を含めて教会として行われている
自治会の会合や、こども園の園長会、DARCのミーティングなどに研宗館を貸している
12ステップの自助グループの分かち合いで、経験の分かち合いは説得力があり生き方の学びになった
右近こども祭りに参加、依存症支援の会との交流と支援、AAの集会場所を提供
自分を知ることの大切なこと、静まることの大切さなどを学んでいる
「神は一つだから柔軟でいい」、というシスターの言葉はその通りだ
教区として交流を促すシステムは上手に作っている

教育部でコロナ禍までは、司祭・シスター・志願生に青少年の指導を依頼し、交流した
ブロックでの教会で一緒に長年行事、平和旬間、ウォーカソン、聖書講座などを開催
ウォーカソンのスポンサー依頼を通して知り合いに教会のことを伝えることができていた
コロナ禍以前は、国際ファミリーデイ、ウォーカソン、サマーキャンプを実施
コロナ禍までは、隣接する幼稚園と共催のバザーを行い、交流してきた
コロナ禍の中で、久しぶりに人に会えたとき喜びを感じた
コロナ収束後にまた以前のような活動が再開されれば再活性化は容易という楽観論も

バザーの時、駐車場を他団体と相互に貸し借りしている
教会のコンサートの知らせを近隣家庭に配った
オンラインの発信は、近所の方々とつながるためによい
近隣の社会との間は比較的友好な関係にありトラブルはほとんどない
小教区と対話がある教会外の団体とは、コロナ禍で中断しているが、良好な関係を維持できている
空襲の日に市内の複数のお寺で鐘を鳴らす集いに参加している
教会内の十字架の道行の設置個所を市民に開放する形で通路として利用してもらう

キリスト者として自分のためだけでなく、全ての人のために神に祈ることを心がけている
信徒たちは社会の一員としてそれぞれの方法で関わりをもっている
活動費はブロックの予算に組み込まれている
寄付などで信徒として、貢献を実践している人もいる
教会で葬儀や追悼式の参列者から評価をいただいたことを心の励みとしている信徒もいる
人それぞれのやり方がある
職場のサークルに、司祭にも声をかけて参加してもらい、職場の人も司祭に親しみを感じている

〈課題〉

様々な困難を抱えている方、特に信仰がない方は頼れる場が必要（信徒は教会に頼れる）
教会で頂いた力や恵みを、信徒は周りの社会やわたしたちの兄弟姉妹にも差し伸べるべきだ
教会として力を集結する方法や、行動のためのバックアップがあるとよい
教会の教えを前面に出さず、行ないで黙々とふるまい、世間ズレになっていないか意識する

近隣の教区、修道会、信徒団体との協議の機会はあり、対話や協力はできているが、全体的に広がっていない
近隣の教会との対話は定期的に会議がある程度で、会議に参加出来ない人は関りがない
近隣の教区や修道会、信徒団体との対話や協力はほとんどない

ビジョンや方針の具体的な内容を信徒みんなで話し合うことはあまりない
ビジョンや目標を立てたいと思って自発的に話し合われたことはない
宣教に対するビジョンや方針を全員で話し合っていない
年に一度の全体集会で、ビジョンが深められることはない
ビジョンや方針は語り合いなさいとは言われるものの、話し合われたことはない
ビジョンを作ってはいるが、形だけのものに終わり、実行に移されていない
ビジョンを立てて、実行して、よかったという経験もない
ビジョン・目標を立てるように命令があり、話し合って目標を教区に提出して終わる、共産圏の形だけ自治のように感じる
教区やブロックの活動が形式化している
ビジョンや目標を立てたくなるような説教や実践例の紹介が必要
話し合うための土台となるビジョンが、主日の説教で語られるならば、意見が出るのではないか
役員の養成は教区の研修会だが、参加する役員の意識は不十分、理解も不十分

夜回りの会などの支援団体の活動を知ってもらうために、知名度を上げる方策を考えるべき
地域の修道会、信徒の意見も広く聞き求める姿勢が必要
教会から社会にむけての活動は出来ていない
社会との繋がりについていえば、日本のキリスト教会は内向き
NICE１のテーマは「開かれた教会」だったが、地域を巻き込んだ皆の教会には程遠い
カトリック教会の中に排他性や閉鎖性が生じないことこそが重要
新しいひとを歓迎せず、せっかく参加してもなぜきたかと言われ不愉快で苦しかった

日本社会は少子化・高齢化の課題もあり、若者の人口減少もあいまって、社会の対話が徐々に減少
価値観は相対的だから、自分の尺度を絶対視せず、受け入れることで豊かになる
どんな人も受け入れられる自分であるように日々祈り、信徒としての向上に努める
感謝の気持ちを忘れず生きていく
祈りを通して信仰を豊かに深めていく、そのために集まって分かち合うことが必要

信徒以外の一般の人との対話は個人的にはあまり経験がない
教会としては一般の方々とはあまり接する機会が少なく、コロナ禍でさらに減少
インターネットなどの過剰な情報社会で、福音宣教の妨げとなるのは、遣り取りや言葉だけの伝達では福音は伝わらないという点
キリスト教が極めて少数なので、学校のクラブや行事、自治会活動が週末に集中している
自治会への加入
教会の施設の一部使用許可
付属の幼稚園もなく、信徒以外の人との対話や協力は少ない
スカウトのラリーポイントに教会を入れたいと申し入れたが、消極的で興味がない

地域に貢献できる教会が望ましい
一般の人々との交流については、個人差が激しい
一般の人々との対話はなく、地域の活動への参加などの交流が出来ていない
一般の人との対話については、仏教の平和行進の参加者が、教会に宿泊することを知ったとき、平和行進の趣旨や経緯を説明した文章を作り、教会の近所に挨拶にいったことがある

古くからの住民と新しい住民の間の地域的にも隔たりが阻害要因となって、交流が困難
保守的な慣習や因習が教会との対話を拒絶している感じる
保守的慣習が根強い地域住民と共通理解を得ることは非常に困難
教会の理想や価値観と地域社会の価値観には厳然とした乖離がある
地域住民との関係を築くためには、細心の配慮や手続きが大切になる
教会は敷居が高い印象がある

開かれた教会、教会への親しみやすさ、近づきやすさを促進するために教会の門は開いている必要あり
教会は社会、地域に開かれた存在であり、また、属している地域と親しみ、つき合っていくべき存在
教会には入りにくい、誰でも入れる場所だと言えるほうがよい
旅先で教会に入ろうと思ったが一歩入る勇気がなかった
教会入口やホームページに「誰でも入っていい」の掲示があれば入り易い
地域住民に教会の存在があまり知られていない
掲示板ももっと活用

地域の方とはコロナ鎮静後に交流を再開したい
深夜のクリスマスミサがなく、その雰囲気を味わうなどの心洗われる機会が減り残念
地域の方を招く行事を再度試み、そこから教会への理解を深めてもらう
クリスマスコンサートとプロテスタント教会の弁当作りサークルで関りがある程度
かつては幼稚園や近所の子どもたちに声をかけて夏の教会学校も活発だった
信徒として教会に行かなければならないが、地域社会でも生きていることを考慮する必要がある

個人で社会教育委員、青少年育成市民会議副会長、少年補導員等いろいろ拝命しているが、宗教の話はしない
バザーとかの行事がなくなって、地域とのつながりが少なくなっていることは疑問
隣接の幼稚園、こども園と、以前はクリスマス、復活祭等のイベントを共有したが、最近はなし
幼稚園の保護者から教会について知りたいという意見もあるので、関わりの手段が必要
他の宗教者や一般の人との協力の経験を調べ、伝えるのが広報部の仕事だと考えるが、情報が集まってこない

毎週欠かさず教会に通うと地域社会とのつながりが薄れてしまう、というジレンマがある
役員をする際、土日にしていた活動をかなり切ったが、地域との関係ができずしんどかった

自分のエゴを超えて、周りの人を赦し、周りの人達のために祈ることが大切
互いの存在と相互理解、協力の大切さ
カトリックであることを公表した際にされる質問にきちんと答えられるようにする
カトリック信徒であることを問い直すことも必要
教会内外の隣人は、個人間で繋がっているが、聖霊の働きは感じられない

今の日本は宗教心が廃れ物質主義になり、神を信じない人たちが多い
「神を知ること」特にキリストの力を知る
勉強して、いい学校に行き、いい会社で金をかせぐことが多くの人の目的
キリスト信徒としていかに生きるかを迷っている
沖縄の方への理解と関わりを大事にして行く必要がある
ウクライナの戦争に反対することは声に出し、行動で示す必要があり、その方法、勇気を与える支援が必要

評議会でも行事をこなすことと、日常の問題解決で精いっぱい
教会の中のことで精一杯な所がある
マンパワーが減ってきて対話もなかなか出来ていない
教会という言葉を夫は嫌って「あそこ」「そこ」と言うので、「買い物に行く」と言っていつも教会に行く

以前は主任司祭の強力なリーダーシップで信徒がついていくという形だった
新しいシステムについていけてない
新しいシステムも大事だが、司祭の新しいリーダーシップや人間的な部分があっていい
日本人は宗教に対して受身的、強いリーダーシップを求めて自ら動かない
「みんなで考え、みんなで責任をとる」という方向には疑問
日常的に宣教司牧計画は話題にならない

近隣の教区とのコロナ対応の違いが気になる
隣の小教区との交流をもっと深めること
他の小教区と昔は県内の教会との日曜学校合同合宿などの交流があった
子どもの人数も減って実現困難だろうが、信仰教育として合宿は必要な行事

教会外の人々と同じ気持ちで信仰の方向や強さの違いも受け入れるおおらかさも大切
他宗教や無宗教の人との対話は、何をどのように学ぶかを留意する必要がある
相手の信じているものを尊重することで、自分の信仰を押し付けない、という前提が大切である
信仰に関して人を傷つけないような教会になることが大切であるという主張もある
コロナ禍で信徒の教会へ行く回数が減り、社会活動も元通りに戻っていないもどかしさがある
社会でキリスト者であると公表するのは勇気がいる
仏教は社会とのつながりについて積極的だが、キリスト教は消極的
お寺や神社の清掃活動には感心する
僧侶にキリスト教は「生活につながらない」と言われた
司祭の説教に感動すると言ったら、話術に感動しているのだと言われた
無宗教者の人は説教を「宗教者はもっともらしいことを言う」と否定的に言われた
地域社会で、キリスト教徒は１割しかいない（原回答のまま）

教会の敷地内に依存症の更生施設を設置しようとしたが、地元自治会に反対された
教会の内外という意識をあえて持たないという考えの人も少なくない
他宗教や教会の催し物に参加をしたり、見学したりする人もいる
就労支援福祉作業所の生活支援員だが、スタッフ、利用者は信徒ではなく、ともに働くうちに自然にミサの日時、クリスマスの機会に自分がキリスト者であることを話すことがあった

文化として、キリスト教を知りたいという欲求を広く多くの人がもっていることに着目する
キリスト教や仏教が文化として影響を与えた観点から、公共施設で講演会などを行う
宗教というより文化として、地域のキリスト教について人々に伝える
キリスト教の過去の痕跡として、西蓮寺にもキリシタン灯篭などもあることを紹介
講演会に仏教者やプロテスタントの牧師さんも呼び、宗教間対話もできる
講演会を通じてカトリックを知ってもらい、興味のある人には教会のアフタヌーンティーや神父様の入門講座を勧める

キリスト教は新たな家族概念を提供しており、独居の人にも兄弟姉妹として集えるサロン的な場を教会が提供していく
「生き生きサロン」など教会を場として提供するということ
地域の人たちとともに歩むため、講演会をきっかけとして、話を聞き、伝え（宣教）、宗教間対話を行い、そこから、われわれが伝えるために学ぶという営みを深めていくことが出来る
仕事で車に同乗したときに、雑談が哲学、生き方などに発展し、興味がありそうな書物を勧めることもあった

信徒を増やさなくても、聖霊の望み通り一人一人のやり方で少しでもイエスに近づくことができたら成功だ
仕事場で接している人が要理の勉強やミサに参加したいという人が出てきたらいい

就業準備、就職活動の中で、あらゆる障がい者の施設などがグループホームなどを作ってもらいたい
引きこもりの親の会に出席し、介護職の介護倫理の知見を活かす
社会福祉士資格を学習・取得し社会貢献する
人権擁護員等の社会活動をされている方へのアプローチ

聖職者の性虐待犯罪への対処が不十分であることは教会の危機である
性虐待の被害者はパワーハラスメントもあって、教会から離れている状態
外から学ぶべきという謙遜さが、教会にはないと感じる
教皇フランシスコの改革への熱意に応じ、注力を惜しまないことを望む

教会と社会の対話は大上段に構えてするものだけでなく、聖霊の望み通り各自のやり方で少しでもイエスに近づければよい
司祭が少なく、忙しくしているので話す機会がほとんどない
いろいろな協力や予備宣教は布教のためで、その結果、信徒は増えていないからその協力は無駄だったという考え方が主流のまま
聖歌隊を外部の人も参加できるようにしたが、努力しても信徒は増えないからむだなことはやめてしまえという意見が出る
外からの学びを大切に、機関紙を発刊しているが、本来の教会の機関紙としての内容からずれているという批判があるように感じる

政治と宗教分離の中で発言が難しい
入管に対する記事が 54 回以上にわたってカトリック新聞に記載されているのは問題である
原子力発電についても、司教団が反対しているのは問題である

〈その他〉まとめ担当者から
日本語版と英語版では質問の意味合いが異なっている